

## 参考文献

Kauranne, T., 1991: A view on massively parallel

computing. ECMWF Newsletter, 53, 16-34.

(気象庁数値予報課・佐藤信夫)

## 第25回夏季大学実施報告

第25回を迎えた夏季大学は、例年通り1991年8月5～8日に気象庁講堂で、「人工衛星から地球を探る」をテーマとして開催した。参加者は64名で、例年より十数名少なかった。これは、雲仙岳の活動状況によっては、気象庁講堂が使用できなくなる可能性が考えられ、募集活動を手控えたためである。期間中の欠席者は数名程度で、終始熱心に受講していた。しかし、最終日は参加者がやや少なく、アンケートの回収率が下がった。本年度の講義は次のとおりであるが、講師の村山氏が急病のため、代講を依頼して急場を凌いだ。

8月5日「気象の測定・その現状と将来(村山信彦氏、代講：松原廣司氏)」

8月6日「ひまわりから見た気象現象(鈴木和史氏)」、「地球のモニタリング(村井俊治氏)」

8月7日「天気図実習(基礎編及び演習)(嶋村克氏)」

8月8日「気象教育の現状と問題解決への一方策(浦野弘氏)」、「ひまわりの連続画像(解説：瀬上哲秀委員)」等ビデオと映画

以下にアンケートの集約の一部を紹介する。

アンケート回収 52名(内訳：会員 29, 非会員 23)

構成 (教員29; 大学2, 高校18, 中学6, 小学3)

(学生13; 大学11, 高校1, 専門学校1)

(気象関連業務2), (その他8)

年齢層 ①10代; 2, ②20代; 15, ③30代; 16, ④40代  
12, ⑤50代以上; 7

目的①教材研究 23, ②業務上の参考 7, ③教養または趣味 28

参加回数 ①23, ②11, ③4, ④回以上14(最多 22回)

申し込み ①天気 23, ②気象 16, ③ 地学教育 3,

④ダイレクトメール 11, ⑤TV 12

受講料 ①高い 4, ②適当 46, ③安い 4

開催時期は 今回の時期 8月上旬が 34, 7月下旬は 13

以上のように、開催時期は学校の夏休みが始まったすぐの適当な時期がよいようだが、年数回の開催や通年開催を希望する声も出始めてきている。

さらに運営上考えるべき課題として、OHP を使った講義の技術を確立することがある。OHP のみで長時間講義を続けると、メモがとれない、図が手元に残らないので復習ができない等の不満が多くなる。講義内容の程度や関心度は比較的好評なので、講義技術については今後依頼する講師の方々に改善をお願いしていくこととしたい。

その他に、夏季大学受講者同士の交流の場や、受講者と講師との交流の場を考えて欲しい旨の希望があった。少数の講師で講義を構成するならばその可能性が出て来るが、限られた時間を何に重点をおいて運営するかという運営の基本に係わる課題である。また、気象庁見学は、当然のことだが既に数回参加した人から、毎年同じとの不満があり、さらに他の気象機関の見学希望もみられた。一方では、庁内見学は総じて好評で、質問に誘発される熱心な説明で時間超過したところも多かった。以上のように、運営上の基本姿勢については25回の実績を一方では踏まえるが、それに拘らないものを当委員会で検討していきたいと考えている。

今後のテーマに関する希望は、「地球環境と気象」、「生物、農業、産業と気象等の応用気象関連」の他に「天気予報」も散見される。第2の四分の一世紀に入る次回には、再び初心に帰ってテーマの設定をしてはどうかと考えている。

アンケートには、この他一つ一つ貴重な意見をていねいに記入して戴いた。全てをここに紹介できないが、今後の運営に生かしていくつもりである。

(教育と普及委員会)

なおテキストに残部があり、購入希望を付けています。